



日本体力医学会第9代理事長を務めるにあたって

日本医学会第39分科会
日本体力医学会第9代理事長
公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長
東京医科大学名誉教授

下 光 輝 一

このたび2012（平成24）年4月1日より歴史と伝統のある日本体力医学会第9代理事長を務めることになりました。1949（昭和24）年に日本体力医学会が設立されて以来、63年の歳月が流れましたが、先人たちの努力により、今日では日本医学会第39分科会として5200人もを会員を擁し、わが国における体力医学、スポーツ医科学、健康科学にかかわる研究をリードする学会として確固たる地位を築いております。

本学会は、公衆衛生、疫学などの社会医学、内科や整形外科などの臨床スポーツ医学、運動生理学、栄養学、体育学、スポーツ心理学などの専門家、研究者、実践家が一堂に会した学際的な学会であります。

今日、日本体力医学会を取り巻く社会状況は、大きく変化しております。つい百年ほど前の時代、すなわち感染症が猖獗していた時代には、病気に罹患するや否や即「死」の転帰をとることが通常でしたが、抗生物質などの登場により感染症はその主役から外れ、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの慢性疾患が疾病の中心を占めるようになりました。その結果、病気の発症と「死」との間に長い期間が存在するようになり、多くの人々が、疾病を持ちながら日常生活を送る時代となりました。また、それらの慢性疾患の要因として過食・偏食、身体的不活動、喫煙習慣などの好ましくない生活習慣との関係が明らかにされつつあります。このような状況の中で、人類は、ステントなどの人工臓器開発、遺伝子治療、再生医療、創薬などの科学技術を駆使した最先端医療を進めつつありますが、一方では、疾病の発症を防止する予防医学や更に、より一層健康を増進するヘルスプロモーションを推し進めることも必要となってきております。また、生物学的な寿命を延ばすことよりも健康寿命を延ばすことが、健康づくり施策の重要な課題となってきました。それを達成するためには、個人の生活習慣改善などの行動変容を進めることばかりでなく、それらを取り巻く社会環境への働きかけも重要となります。これらの働きかけは、小児から高齢者までのすべてのライフステージにおいて、さらに地域、職域、学校というすべてのセッティング（場）において、行われなければなりません。特に、良好な生活習慣の代表的なものである身体活動・運動、スポーツ、体力を対象とした研究の重要性が、一層増してきております。

そのような中で、日本体力医学会に集う研究者たちは、疾病を有する人、一般健常人、運動愛好者、競技選手それぞれの健康増進や効果的な競技能力向上を推進するために、生理学的・生化学的・解剖学的・分子生物学などの基礎医学研究から、体育学あるいは運動学におけるトレーニング指導、運動処方、さらには臨床医学や社会医学、疫学、心理学など多岐にわたる研究を押し進めています。

改めて、日本体力医学会の定款を読み返してみますと、第4条には、「本会は、体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかることを目的とする。」と定められています。

このような日本体力医学会の運営に責任を有する第9代理事長を拝命しました以上は、定款の

目的を達成するために、第8代吉岡利忠理事長の進められてきた学会運営上の重要な課題、学会組織の法人化、および英文誌の刊行を引き継がせていただき、学会をしっかり運営し、学会の発展に微力を尽くさせていただく所存です。

その具体的な活動方針を以下に挙げさせていただきました。

- 1) 学会の持てる力を存分に発揮するために、理事、評議員、会員一人一人が学会活動へ何らかの貢献をしていただくよう、理事会、評議員会、各種委員会のあいだでの対話を積極的に行い、民主的な学会運営を図ります。
- 2) 学会組織強化の一環として、今期のうちに学会の一般社団法人化を進めてまいります。
- 3) 学会誌編集については、和文誌を継続的に発行しつつ、欧文誌「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMS誌)」の発行を軌道に乗せ、内容の充実を図ります。
- 4) マルチレベルでの研究や実践での連携協力を図ります。日本体力医学会内では、会員間の連携 (inter-individual) ばかりでなく、分野間の連携 (intersectional) を、また体育学会、臨床スポーツ医学会、運動生理学会などスポーツ科学関連学会や肥満学会、糖尿病学会、高血圧学会、循環器学会などの臨床系医学会、公衆衛生学会、疫学会、栄養食糧学会などの健康関連学会などとの学際的な連携 (interdisciplinary)、さらに国際的な学会 (FIMS, AFSM, ECSS, ACSM) などとの国際的な連携 (international) を図ってまいります。
- 5) 4) と関連しますが、本学会での研究成果の応用を図り、国や地域、職域、学校等で健康体力づくり、運動、スポーツの推進のための施策提言や各種ガイドラインの作成などを積極的に行ってまいります。
- 6) 男女共同参画を推進するために女性の研究者の育成をさらに進め、学会のパワーアップを図ります。
- 7) 健康科学アドバイザーについては、そのあり方について検討し、健康運動指導士や他の学協会の運動、スポーツの指導者制度等との関連等も含めて今後の方向性について議論する場を設けます。

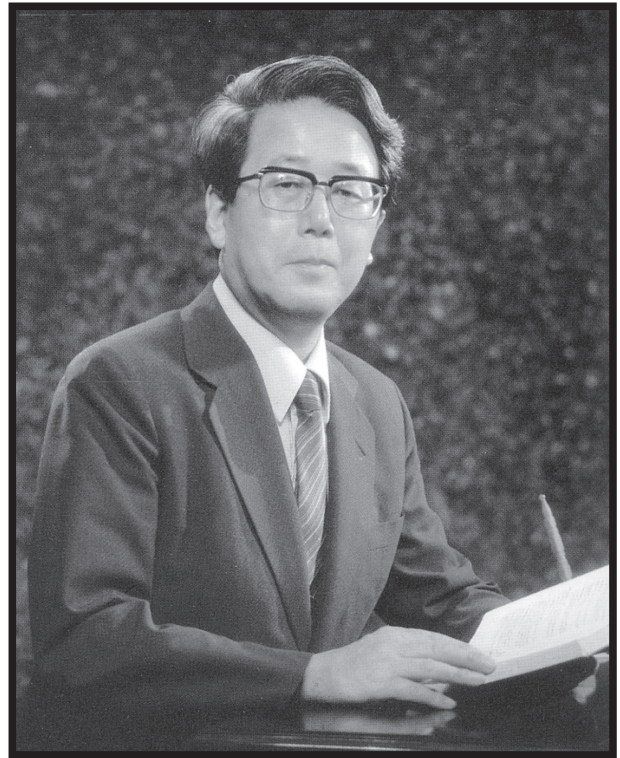
これらの活動方針を達成するために、今期は、総務委員会内に設置されていたガイドライン検討委員会を新たに独立した委員会といたしました。さらに女性研究者、会員の活動を支援するために男女共同参画推進委員会を設置しました。また、渉外委員会と別個に広報委員会を設置し、ITを活用した学会の広報活動などを進めることとしました。

本学会が、益々発展していけるよう学会運営を行ってまいりたいと思いますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

故 酒 井 敏 夫 先生 の ご 逝 去 を 悼 む

東京慈恵会医科大学・学長

名誉教授 栗 原 敏



故 酒 井 敏 夫 先生

酒井敏夫先生 略歴

大正9年6月21日 神奈川県茅ヶ崎市に出生
昭和21年9月 東京慈恵会医科大学卒業
昭和23年4月 東京慈恵会医科大学生理学教室助手
昭和26年11月 横浜国立大学学芸学部助教授
昭和33年3月 ロックフェラー大学留学
昭和35年3月 横浜国立大学学芸学部教授
昭和40年4月 東京慈恵会医科大学第二生理学教室教授
昭和58年1月 学校法人慈恵大学理事
昭和61年4月 東京慈恵会医科大学名誉教授
平成3年10月 日本体力医学会名誉会員
平成6年3月 日本生理学会特別会員、
勲三等瑞宝章受章
平成16年11月 宇宙航空環境医学会名誉会員
平成24年6月19日 正五位叙位

酒井敏夫先生（東京慈恵会医科大学名誉教授、日本体力医学会名誉会員）は、平成24年5月23日、午前10時5分、ご逝去なさいました。享年91（歳）でした。

酒井先生は大正9年6月21日、神奈川県茅ヶ崎市にお生まれになり、東京慈恵会医科大学を昭和21年にご卒業になりました。当時は、終戦直後で生活に困窮した日々でしたが、昭和23年、東京慈恵会医科大学生理

学教室（浦本政三郎教授）に入られ、当初、体力医学の研究に従事されました。先生は学生時代から浦本政三郎先生のご紹介で、労働科学研究所でガス分析に従事し、それが生理学に興味を持つきっかけとなったようです。教室では小川新吉先生（東京教育大学教授などを経て鳴門教育大学教授）から体力測定の研究、特に持久力の測定を命じられ、甲府一高の24時間競争を対象とした研究に参加されました。

その後、脳波の測定などを手がけられた後、名取禮二先生が始められた筋生理学の研究に参画し、以来、筋生理学の道に入られました。

昭和26年から横浜国立大学学芸学部にて奉職され、運動生理学の教育に従事されました。昭和39年8月、東京慈恵会医科大学第二生理学教室・杉本良一教授が急逝されたのに伴い、昭和40年4月に酒井先生が杉本先生の後任として第二生理学教室を担当することになりました。

酒井先生の研究主題は骨格筋の興奮収縮連関で、一連の研究は昭和33年、真島英信・元順天堂大学教授の後任としてロックフェラー大学に留学する機会を得たことが契機になっています。米国では、骨格筋線維に少量のカフェインを作用させると、微小な収縮波がランダムに生じることを顕微鏡下に観察しました。この収縮を抑制するために溶液の温度を低下させると強い収縮が生じ、そのメカニズムの解明に取り組まれたの

であります。

蛙の骨格筋に収縮を生じさせないごく少量のカフェインを作用させておいて、溶液の温度を室温から4℃以下に急速に低下させると強い収縮が起こり、これを急速減温拘縮（急速冷却拘縮）（急冷拘縮）（rapid cooling contracture, RCC）と命名しました。急冷拘縮は、高濃度のKClを含む溶液中でもリンゲル氏液中と同様におこるので、膜電位に依存しない収縮です。また、グリセリン処理して横行小管を破壊した筋線維でも急冷拘縮は生じるので、細胞内小器官からのCa²⁺放出によって生じることが考えられていました。その後、筋小胞体の局在と機能が明らかになり、少量のカフェイン処理で筋小胞体のCa²⁺放出チャネルの開口を促進させておいて、急速冷却すると大量のCa²⁺が放出されて収縮が誘起されることが分かりました。生筋で筋小胞体からのCa²⁺放出を定性的に測定する方法がなかった時代に、急冷拘縮は多くの筋生理学者の興味を惹き応用されました。昭和43年には米国のMuscle Disease Instituteに短期滞在され、Excitation-Contraction Coupling（興奮収縮連関）という概念を提唱されたA. Sandoz博士とともに、急冷拘縮の研究を深められました。その後、Ca²⁺感受性発光蛋白イクオリンを用いて細胞内Ca²⁺濃度測定が行われ、骨格筋の急冷拘縮時には細胞内Ca²⁺濃度が3相に変化することが証明されました。また、急冷拘縮は心筋や平滑筋でも観察されることが分かりましたが、心筋の急冷拘縮は定性的にも、また定量的にも骨格筋と異なることが明らかになりました。一時期、急冷拘縮は筋小胞体からのCa²⁺放出を推定する方法として汎用されました。

酒井先生は、医学教育に熱意を持って取り組まれました。学生昼食会を開き多くの学生と昼食をともにしたり、一年間の生理学教育の要約を“Process”という小冊子にまとめて進級時に学生に配布するなどして、学生を啓発されました。我々教員も教育の重要性を自然に認識するようになったのであります。先生が横浜国立大学で医学部以外の教員の方と交流した経験が、先生の医学教育に対する姿勢に大きな影響を与えていたと感じます。先生を慕って学部学生が集まり、いわゆる学生班として多くの学生が教室に出入りするようになり、吉岡利忠・弘前学院大学学長、本間生夫・昭和大学医学部第二生理学講座教授、國分眞一郎・日本大学医学部第一生理学講座教授、小西真人・東京医科大学医学部細胞生理学講座教授、米本恭三・元東京都立保健科学大学学長など多くの人材を育成されました。また、体力科学の研究を目指して、東京学芸大学、日本体育大学、筑波大学などから多数の方が入室し研

鑽しました。先生の教えを受けた方々は、その後、様々な大学で学長や教授に就任して活躍しており、日本体力医学会の活動に協力しています。

酒井先生は、昭和26年日本体力医学会評議員に選任され、その後、昭和51年からは日本体力医学会理事に就任され、同時に、体力科学編集委員長として、15年7か月にわたり、体力科学の編集にご尽力なさいました。先生は教授室のソファーに座って、お一人で体力科学の編集とゲラ刷の校正をなさっていました。当時の編集委員会は実務をやる方が決まっておらず、先生お一人が事務作業を引き受けていらしたのではないかと想像しています。これらのご功績によって、平成3年に日本体力医学会名誉会員に推挙されました。

また、財団法人明治安田厚生事業団健康医科学研究助成選考委員（昭和59年10月から平成20年3月）や、公益財団法人石本記念デサントスポーツ科学振興財団学術委員（昭和54年から昭和62年）を歴任され、日本の体力医学、スポーツ科学の振興に貢献されました。

酒井先生は、日本生理学会の常任幹事を昭和53年から15年間お務めになり、その間、編集幹事、用語委員会委員長、教室史編集委員会委員長、学術研究委員会委員、教育委員会委員などを歴任されました。特に、日本生理学雑誌の編集には尽力されました。編集委員長を12年間務められ、一人で黙々と校正をやられていたことを思い出します。人がやらないのであれば自分がやるという強い気持ちで編集に取り組まれていました。また、日本生理学会の念願であった日本生理学教室史の編集に委員長としてあたられました。今やらなければ、日本の生理学教室の歴史が分からなくなると考え、全国の生理学教室に原稿を依頼し編集に取り組みました。生理学教室の教授は年々代わっていく中で、記憶が薄れないうちにそれぞれの教室の歴史を書ける方の協力を得て編集したいと考えられていたのです。上巻を上梓した後、下巻の編集にも取り組まれ、その結果、日本の生理学教室の歴史と現状が分かるようになりました。

また、教育委員会の活動にも熱心に取り組まれました。当時、教育委員会の委員は国公私立大学、大学の所在地などを考慮して委員が選出され、偏りのない委員会として、生理学教育の改善に取り組んでおり、活動費が特別に配慮されていました。日本生理学会が教育を重んじていたという姿勢の現われでした。酒井先生は、生理学実習書の改訂などにも積極的に係っておられました。また、昭和54年には当番幹事として増田允教授とともに第56回日本生理学会大会を、東京慈恵会医科大学で開催されました。このような日本生理学

会へのご貢献によって、平成6年には日本生理学会特別会員に推挙されました。また、同年、勲三等瑞宝章を受章されました。

昭和61年3月31日で東京慈恵会医科大学を、定年によって退任されると同時に、名誉教授の称号が授与されました。ご退任後は、東京慈恵会総合医学研究センター長、大正製薬株式会社技術顧問、日本航空株式会社特別医学研究顧問などを歴任されるとともに、書や絵画に親しまれそれぞれ個展を開くなどして過ごされていました。

平成24年3月24日、東京慈恵会医科大学細胞生理学講座（旧第二生理学教室）の懇親会が行われ、酒井先生もご出席になりました。乾杯の音頭をとられ出席者

と歓談されたのが、最後の公式の席となりました。

平成24年5月23日、朝、ご自宅で安眠されていたと思っていたところ、安らかにご逝去なさっていることが、ご家族によって確認されました。先生は生前から献体を希望されており、ご家族もそのご遺志を尊重して東京慈恵会医科大学に献体なさいました。最後まで教育者としての姿勢を示されたのであります。

私は学生時代を含めると45年間の長きにわたり、先生から公私に渡りご指導を受けたこととなります。先生に接し教えを受けた多くの方の心の中に、酒井敏夫先生はいつまでも生き続けることでしょう。心から哀悼の意を表します。

2012年6月25日

日本体力医学会評議員申請要項

評議員に申請をされたい方は申請書類を評議員会開催2ヶ月前までにご提出下さい。

I. 申請資格について

下記、**評議員選考内規**をご参照下さい。

◎日本体力医学会評議員選考委員会評議員選考内規

昭和62年10月7日改定

平成6年11月18日改定

1. 評議員候補者は、7年以上継続した正会員歴を有していなければならない。
2. 評議員候補者は、7年以上の研究歴を有し、体力医学、運動生理学、スポーツ医学などに関する十分な研究業績の著書、原著論文などの業績発表を有していなければならない。
3. 評議員候補者は、評議員3名の推薦をうけて、入会年月日を明記した履歴書および業績目録を添えて、評議員会開催2カ月前迄に評議員選考委員会に申請しなければならない。
4. 日本体力医学会の学会運営に必要と認められるものは、必ずしも上記条件を満たしていなくとも評議員選考委員会の議を経て、その推薦により評議員候補者となることができる。
5. 評議員選考委員会は、推薦された評議員候補者を審議し、評議員の資格を有すると認められたものを、理事会へ報告し、評議員会に推薦する。

付 則

1. 体力医学に係る領域の研究で博士の学位を取得している場合には別途考慮する。
2. 日本体力医学会より授与された日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を有する場合には別途考慮する。
3. 研究業績については、原則として、体力医学に係る原著論文が5編以上あることを基準として、評議員選考委員会で審議する。
4. 申請書類の送付先は 一般社団法人 学会支援機構内 日本体力医学会評議員選考委員会とする。

II. 申請手続きについて

下記書類をHPの評議員申請 (<http://www.jspfsm.umin.ne.jp/councilor/index.htm>) からダウンロードの上、ご記入・ご提出下さい。

- 1) 評議員推薦書 (評議員3名の署名・捺印が必要です)
- 2) 履歴書
- 3) 研究業績

III. 承認までの流れについて

- ① 評議員会開催2ヶ月前 (7月中旬頃) までに申請書類を提出いただく。
- ② 提出期間満了後に評議員選考委員会で確認・選考を行う。
- ③ 9月理事会および評議員会総会において報告・承認を行う。

■申請書提出先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階
一般社団法人 学会支援機構内
日本体力医学会評議員選考委員会
Tel: 03-5981-6015 (学会専用) Fax: 03-5981-6012 (学会支援機構)
E-mail: jspfsm@asas.or.jp

評議員選考委員長 吉岡利忠

訃 報

本学会名誉会員の酒井敏夫（東京慈恵会医科大学名誉教授）先生が、去る2012年5月23日にご逝去されました。茲にお知らせし、謹んでご冥福をお祈り致します。

日本体力医学会定例理事会（2012年1月）議事録

日 時：2012年1月20日（金）午後5時30分～7時30分

場 所：八重洲倶楽部第2会議室

議 長：吉岡利忠理事長

出席者：吉岡利忠、荒尾 孝、今泉和彦、
確井外幸、大野 誠、小野寺 昇、
栗原 敏、佐藤祐造、下村吉治、
鈴木政登、田中喜代次、永富良一、
西牟田 守、浜岡隆文（各理事）、
江橋 博（第66回大会長・山口）、
松岡敏男（第67回大会事務局長・岐阜）、
体力科学編集事務局（鶴岡印刷株式会社）

欠席者：勝村俊仁、川原 貴、小林寛道、
坂本静男、下光輝一、田中宏暁、
西平賀昭、福永哲夫、森谷敏夫（各理事）、
小林康孝、能勢 博（各監事）

【審議事項】

1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。また、議事録署名人として西牟田、浜岡両理事が指名された。

2. 健康科学アドバイザー新規申請者について（確井称号委員長）

第22回スポーツ医学研修会の修了試験合格者（12名）とアドバイザーへの申請者（7名）については前回理事会で承認済である旨と、今回追加で3名から申請書類が提出されている旨の報告がなされた。追加申請者3名の申請書類一式を確認した結果、資格は満たしているとの報告がなされ、承認された。

3. 健康科学アドバイザー継続申請者（確井称号委員長）

昨年7月の理事会で報告された健康科学アドバイザー称号の継続申請者13名の他に、別途1名の継続申請があった旨の報告がなされた。東日本大震災で被災された為に継続申請を行うことができなかったとのことであり、申請書類一式を確認した結果、資格を満たしていたため、通常通り処理を行う旨の報告がなされ、審議の結果、承認された。

4. その他

・将来構想検討委員会からの提案について（吉岡理事長）
資料に基づき、将来構想検討委員会から「東日本

大震災関連課題に対する本学会の役割と貢献方法について検討を行うための特別委員会の設置」が提案されたことが報告され、協議の結果、承認された。具体的な活動内容については将来構想検討委員会委員長の荒尾理事と永富理事で検討を行い、改めて各理事に報告を行うこととなった。

・今後の理事会開催のスケジュールについて
今後の理事会開催のスケジュールが確認された。
◎2012年5月18日（金）、◎2012年7月20日（金）、
◎2012年9月13日（木）、◎2013年1月18日（金）

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 総務委員会（小野寺委員長）

・日本医学会からのアンケートについて

日本医学会から本学会に対し、『日本医学会の法人化に関するアンケート依頼』があった旨が報告され、その内容について説明が行われた。

1) 日本医学会の法人化に賛成か、反対か。

2) 1) に賛成の場合、どのような経済的支援方法（負担金拠出方法）が可能か。

①日本医学会 会員数（平成23年6月1日現在、860,647人）にて均等割し、各学会所属会員数に応じて拠出する。

②日本医学会 会員数（平成23年6月1日現在、860,647人）にて均等割し、各学会所属会員数に応じて拠出する。ただし、基礎系・社会学系分科会では非医師会員の比率が高いことから×1、臨床系分科会は×2を拠出する。

③各分科会は、日本医学会に社員として参加するため基本的負担金（5～10万円）を拠出し、残りを各学会所属会員数に応じて拠出する。

上記について、1) は「賛成」、2) は「②」として回答を行ったことが報告され、承認された。

・厚生労働省から本学会に対し、「次期国民健康づくり運動プラン」にかかる意見の提出依頼があったことが報告され、総務委員会で回答をまとめ、理事長の確認を行った後に提出を行うことが決定された。

・国立栄養研究所から本学会に対し、「健康づくりに関する検討会議」の開催依頼があったことが報告され、3月末までに会議（参加予定者：在京理事）を開催する予定である旨が報告された。

2) 編集委員会（鈴木委員長、体力科学編集事務局）
資料に基づき、欧文誌（The Journal of Physical

Fitness and Sports Medicine (略称: JPFMSM) の刊行計画 (分量・掲載予定論文数・経費・投稿論文数等) について報告がなされた。

また、第1巻号1号には理事長及び編集委員長のコメントを掲載する予定である旨が報告され、承認された。

3) 渉外委員会 (永富委員)

I) ECSS (ヨーロッパスポーツ科学会)

・2012年7月4日～7日にベルギーのブルージュで開催される第17回ECSSにおいて行われる「ECSS-日本体力医学会合同シンポジウム」のシンポジスト募集を行ったところ4名の応募があり、現在選考を行っている旨の報告がなされた。

II) ACSM (米国スポーツ医学会)

・本年5月29日～6月2日に第59回ACSMが開催される旨及び同学会において特に優れた研究成果の発表を行う本学会会員への参加助成制度について、募集が行われている旨の報告がなされた。

III) AFSM (アジアスポーツ医学会)

・2013年5月25日～28日にマレーシアで第13回アジアスポーツ医学会会議が開催される予定である旨が報告された。

4) 学術委員会

I) スポーツ医学研修会 (鈴木委員長)

・基礎コースを7月6日(金)・7日(土)に、応用コースを8月3日(金)・4日(土)に、修了試験を8月5日(日)に慈恵医大西新橋校で開催する予定である旨の報告がなされた。

また、スポーツ医学研修会の運営補助を目的として、スポーツ医学研修会実行委員会内で保管が行われていた資金(96万4292円:「スポーツ医学(朝倉書店)」の印税他)について、昨年10月に日本体力医学会本体の資金口座に振込を行った旨が報告された。併せて、同資金については当初の目的通り、「学術委員会の活動に対する運営補助資金」として使用を行うことが提案され、審議の結果、承認された。

II) プロジェクト研究委員会 (大野委員長)

・平成24年度のプロジェクト研究公募テーマに基づき、研究計画の募集(4月30日まで)を行っている旨の報告がなされた。

5) 将来構想検討委員会 (荒尾委員長)

5月理事会に委員会活動に関する最終報告書を提出し、9月の総会で報告を行う予定である旨の報告がなされた。

2. 第66回大会 (山口) の大会報告について

(江橋第66回大会長)

資料に基づき、参加登録人数(1,636名)、講演関係[発表744題(口頭発表273題,ポスター発表471題他)],災害地参加費免除人数(24名)等の実施内容及び収支決算について報告がなされた。

3. 第67回大会 (岐阜) の準備状況

(松岡第67回大会事務局長)

体力科学61巻1号に大会案内(第1報)の掲載を行った旨及び体力科学誌の発送を希望していない会員についてはホームページ上で案内を行った旨の報告がなされ、併せてプログラム関係、参加費、各種登録、演題募集等について報告がなされた。

会期:2012年9月14日(金)～16日(日)

会場:長良川国際会議場及び都ホテル(岐阜)

4. 第68回大会 (東京) の準備状況 (栗原第68回大会長)

大会の準備状況等について報告がなされた。

会期:2013年9月21日(土),22日(日),23日(月/祝日)

5. その他

・第66回大会シンポジウム(日本体力医学会プロジェクト研究報告)について(吉岡理事長,佐藤理事)

配布資料に基づき、第66回大会(山口)で行われたシンポジウム:「日本体力医学会プロジェクト研究成果報告(メタボリックシンドロームの予防・治療のための運動療法)」他について、「Medical Tribune」誌で紹介が行われた旨の報告がなされた。

・「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2012(文部科学省)」について(吉岡理事長)

配布資料に基づき、文部科学省より本学会宛に「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2012」の開催について連絡があった旨の報告がなされた。

・日本体力医学会役員選挙スケジュールについて(吉岡理事長)

配布資料に基づき、役員選挙の経過ならびスケジュールについて報告がなされた。

・シンポジウム「【重力とともに生きる】～宇宙飛行士との対話を通して健康について考える～(主催:JAXA)」について(吉岡理事長)

配布資料に基づき、本学会が後援を行ったシンポジウム「【重力とともに生きる】～宇宙飛行士との対話を通して健康について考える～(主催:JAXA)」が開催され、本学会理事長、日本整形外科学会理事長、日本リハビリテーション医学会理事長が発表を行った旨が報告された。

・第66回大会公開シンポジウムについて(吉岡理事長)

配布資料に基づき、第66回大会(山口)で行われた公開シンポジウム「健康・スポーツ科学および教育分野における人対象の調査・研究倫理」について、体力科学:60巻6号に講演記録が掲載された旨の報告がなされた。

・第14回秩父宮記念スポーツ医・科学賞(公益財団法人日本体育協会)について

吉岡理事長より、第14回秩父宮記念スポーツ医・科学賞の受賞者について報告が行われた。

<第14回秩父宮記念スポーツ医・科学賞受賞者>

○功労賞:佐伯年詩雄氏(筑波大学名誉教授)

○奨励賞:日本サッカー協会男女ナショナルチーム医・科学サポートグループ(代表:福林徹氏)

2012-2014年度編集委員会メンバー

委員長	鈴木政登 (東京慈恵会医科大学医学部)	
副委員長	今泉和彦 (早稲田大学人間科学学術院)	
委員	井澤鉄也 (同志社大学スポーツ健康科学部)	石井直方 (東京大学大学院総合文化研究科)
	石原昭彦 (京都大学大学院人間・環境学研究科)	井上茂 (東京医科大学医学部)
	内田直 (早稲田大学スポーツ科学学術院)	勝川史憲 (慶應義塾大学スポーツ医学研究センター)
	川上泰雄 (早稲田大学スポーツ科学学術院)	木崎節子 (杏林大学医学部)
	後藤勝正 (豊橋創造大学リハビリテーション学部)	小宮山伴与志 (千葉大学教育学部・東京学芸大学連合大学院)
	坂本静男 (早稲田大学スポーツ科学学術院)	下村吉治 (名古屋大学大学院生命農学研究科)
	新開省二 (東京都健康長寿医療センター研究所)	竹森重 (東京慈恵会医科大学医学部)
	鳥居俊 (早稲田大学スポーツ科学学術院)	内藤久士 (順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科)
	中澤公孝 (東京大学大学院総合文化研究科)	成田和穂 (日本体育大学大学院体育科学研究科)
	西牟田守 (千葉県立保健医療大学健康科学部)	西保岳 (筑波大学大学院人間総合科学研究科)
	能勢博 (信州大学大学院医学系研究科)	八田秀雄 (東京大学大学院総合文化研究科)
	藤井宣晴 (首都大学東京大学院人間健康科学研究科)	藤本繁夫 (大阪市立大学大学院医学研究科)
	水野眞佐夫 (北海道大学大学院教育学研究科)	宮地元彦 (国立健康・栄養研究所)
	山内秀樹 (東京慈恵会医科大学医学部)	和気秀文 (和歌山県立医科大学医学部)
	宇高潤 (東京慈恵会医科大学医学部 (庶務))	

和文誌『体力科学』編集委員会

委員長	鈴木政登
副委員長	今泉和彦
委員	井澤鉄也, 石井直方, 石原昭彦, 井上茂, 内田直, 勝川史憲, 川上泰雄, 木崎節子, 後藤勝正, 小宮山伴与志, 坂本静男, 下村吉治, 新開省二, 竹森重, 鳥居俊, 内藤久士, 中澤公孝, 成田和穂, 西牟田守, 西保岳, 能勢博, 八田秀雄, 藤井宣晴, 藤本繁夫, 水野眞佐夫, 宮地元彦, 山内秀樹, 和気秀文, 宇高潤

英文誌『JPFMS』編集委員会

委員長	今泉和彦
委員	井澤鉄也, 石井直方, 石原昭彦, 井上茂, 内田直, 勝川史憲, 川上泰雄, 木崎節子, 後藤勝正, 小宮山伴与志, 坂本静男, 下村吉治, 新開省二, 鈴木政登, 竹森重, 鳥居俊, 内藤久士, 中澤公孝, 成田和穂, 西牟田守, 西保岳, 能勢博, 八田秀雄, 藤井宣晴, 藤本繁夫, 水野眞佐夫, 宮地元彦, 山内秀樹, 和気秀文, 宇高潤

EDITORIAL BOARD (The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine : JPFMS)

Editor-in-Chief	Kazuhiko IMAIZUMI (<i>Waseda University</i>)
Editors	Nobuharu L. FUJII (<i>Tokyo Metropolitan University</i>)
	Katsumasa GOTO (<i>Toyohashi SOZO University</i>)
	Shigeru INOUE (<i>Tokyo Medical University</i>)
	Naokata ISHII (<i>The University of Tokyo</i>)
	Fuminori KATSUKAWA (<i>Keio University</i>)
	Takako KIZAKI (<i>Kyorin University</i>)
	Motohiko MIYACHI (<i>National Institute of Health and Nutrition</i>)
	Hisashi NAITO (<i>Juntendo University</i>)
	Kazuo NARITA (<i>Nippon Sport Science University</i>)
	Takeshi NISHIYASU (<i>University of Tsukuba</i>)
	Shizuo SAKAMOTO (<i>Waseda University</i>)
	Shoji SHINKAI (<i>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology</i>)
	Shigeru TAKEMORI (<i>The Jikei University School of Medicine</i>)
	Sunao UCHIDA (<i>Waseda University</i>)
	Hidefumi WAKI (<i>Wakayama Medical University</i>)
	Shigeo FUJIMOTO (<i>Osaka City University</i>)
	Hideo HATTA (<i>The University of Tokyo</i>)
	Akihiko ISHIHARA (<i>Kyoto University</i>)
	Tetsuya IZAWA (<i>Doshisha University</i>)
	Yasuo KAWAKAMI (<i>Waseda University</i>)
	Tomoyoshi KOMIYAMA (<i>Chiba University and Tokyo Gakugei University</i>)
	Masao MIZUNO (<i>Hokkaido University</i>)
	Kimitaka NAKAZAWA (<i>The University of Tokyo</i>)
	Mamoru NISHIMUTA (<i>Chiba Prefecture University of Health Science</i>)
	Hiroshi NOSE (<i>Shinshu University</i>)
	Yoshiharu SHIMOMURA (<i>Nagoya University</i>)
	Masato SUZUKI (<i>The Jikeikai University School of Medicine</i>)
	Suguru TORII (<i>Waseda University</i>)
	Jun UDAKA (<i>The Jikei University School of Medicine</i>)
	Hideki YAMAUCHI (<i>The Jikei University School of Medicine</i>)

JPFISM誌の現状とJPFISM誌へのご投稿のご案内

2012年5月25日、本学会待望の英文誌（The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine: JPFISM）Vol.1, No.1が予定通り刊行されました。本創刊号には、Editorial Article:3件、Review Article:13篇、Short Review Article:7編、Regular Article:4編が掲載され、総ページ数も約200頁となりました。また、JPFISM誌に掲載された論文の和文抄録を体力科学誌に載せ、会員の皆様方にその内容をお読みいただくように工夫いたしました。今後もしばらくはこのスタイルを踏襲したいと思います。

7月25日には、JPFISM Vol.1, No.2が予定通り刊行されました。現時点での編集作業はほぼ順調に進行しております。このような段階に至るまでには、著者の先生方、査読者の先生方、編集委員の諸先生および事務局の皆様方をはじめとする多くの皆様方より多大なご支援・ご指導・ご協力・ご尽力を賜りました。編集委員会を代表してここに厚く御礼を申し上げます。

JPFISM誌は我が国のみならず、近隣のアジア諸国を中心として広く世界の研究者の研究成果を発信する為に刊行されました。現在までに、本学会員に加え、スペイン、ギリシャ、トルコ、中国、台湾および韓国などの研究者から投稿されております。当面のJPFISM誌はアジアをリードする体力・スポーツ医学雑誌を目指すと共に、世界に通ずる学術雑誌となるように、他の研究者が本JPFISM誌から引用されるような内容に方向づけられるよう会員の皆様よりご協力・ご支援をいただき乍らさらに努力して参りたいと思います。インパクトファクターも当面は1～2を目指す所存であります。また、JPFISM誌に掲載された論文をJ-STAGEから9月より閲覧できるようにするため、現在関係機関と綿密に打ち合わせを行っているところです。JPFISM誌が閲覧できるようになった際には、本誌及び本学会HPで皆様方に至急お伝え致します。

本年度からはJPFISM誌の編集委員会のメンバーも総勢31名となり、さらに充実して参りましたので、今後、JPFISM誌に本学会会員の皆様方からの積極的な多数のご投稿を是非お願い申し上げます。

此の度、5月に刊行された本学会機関誌JPFISM誌刊行の現状を皆様方にお伝えすると共に、JPFISM誌へのご投稿をここに懇請させていただきます。併せて、2012-2014年度本編集委員会のメンバーを紹介させていただきます。

日本体力医学会編集委員会

委員長：鈴木政登

副委員長：今泉和彦

第26回運動と体温の研究会（名古屋）のご案内

- 日時：2012年9月13日（木）13時～17時
（12：30より受付）
- 場所：名古屋国際センター 第1会議室（5F）
〒450-0001 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
<http://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/nicnews/>
（名古屋駅から東へ徒歩7分）
- 特別講演：
「熱中症の疫学 - 熱中症の根絶を目指して -」
京都女子大学家政学部食物栄養学科
中井 誠一 先生
- 演題募集：次の3セッションを予定しています
1) 若手発表（大学院生、概ね40歳未満、既受賞者はご遠慮下さい）：表彰の対象となります
2) プロジェクト研究発表
「熱中症に関する総合的研究（衣食住および運動）」
3) 2～3枚スライド・1話題
- 演題締切：2012年8月13日（月）
- 懇親会：17：30～20：00
会場 東天紅 名古屋市中村区那古野1-47-1
名古屋国際センタービル25F
- 会費：5,000円
研究会だけの参加は1,000円とします。参加申し込み時にお知らせ下さい
大学院生は2,000円（研究会だけは無料）とします
- 参加申し込み：eメールにて、事務局までお願いします
- 抄録締切：2012年8月29日（水）
A4用紙1枚の抄録（演題名、発表者・共同研究者名、所属、口演要旨）（MSワード形式またはPDF形式）をeメール添付にてお送り下さい

「運動と体温の研究会」事務局
中京大学スポーツ科学部・運動生理学研究室 松本孝朗
Tel: 0565-46-6656（直通） Fax: 0565-46-1272
〒470-0393 豊田市貝津町床立101
E-mail: t-mat@sass.chukyo-u.ac.jp

※会員の皆様、必ずご回答ください。

平成24年6月25日

日本体力医学会会員 各位

英文誌（JPFSM）オンライン版への切り替えのお願い

日本体力医学会編集委員会

委員長 鈴木 政登

副委員長 今泉 和彦

謹啓

時下、会員の皆様におかれましては益々御清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、本学会の活動にご理解・ご尽力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、すでに会員の皆様方にお送り致した本学会英文機関誌、*Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM)* については、9月より和文誌・『体力科学』と同様、WEB上でも閲覧・プリントアウトが可能となるよう準備を進めているところです。

今後、本学会としては、和文誌・『体力科学』と同様、英文誌 *JPFSM* の部数を経費削減と効率的な刊行を目指すとともに、学術情報のオンライン化を一層進めるため、オンライン購読への切り替えをお願いする所存です。

就きましては、オンライン購読の手続きを下記の回答方法にてご回答いただければまことに幸甚に存じます。

此の度の切り替えにより齎されるコストダウンは、今後の学会活動の更なる発展とホームページ内容の充実に還元されることとなります。

以上、本学会の更なる発展のため、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

謹 白

回答方法：

1. 日本体力医学会ホームページ (<http://www.jspfsm.umin.ne.jp/>) にアクセスしてください。
2. トップページ「重要なお知らせ」の「JPFSM」オンライン購読切り替え回答 ボタンをクリックしてください。（会員-ログイン画面が表示されます）
3. 個人ページにログインの上、「追加項目」Q2の「JPFSM」誌（プリント版）の必要・不要について回答をお願いします。

回答期限：2012年8月15日（水）

※会員番号は「101」から始まる10ケタの数字になります。

※パスワードの不明な方は、会員-ログイン画面の“パスワード問い合わせ” ボタンよりお問い合わせ下さい。

「第29回筋肉の会」・「第29回筋電図の会」のご案内（第2報）

日時：平成24年9月13日(木)
第67回日本体力医学会大会前日
15:00~17:00

会場：「筋肉の会」全学共通教育棟1階1A教室
「筋電図の会」全学共通教育棟1階1B教室
お車でお越しの際は入り口で臨時入校手続きを
して、駐車料金（¥100）を支払ってください。

演題：

「筋肉の会」

1. 奥津光晴 先生
(Robert M. Berne Cardiovascular Research Center, University of Virginia School of Medicine)
「慢性疾患による骨格筋萎縮とその予防方法の確立」
2. 橋本有弘 先生
(独立行政法人国立長寿医療研究センター研究所 再生再建医学研究部長)
「骨格筋幹細胞（筋サテライト細胞）の性質解明：加齢や筋疾患による性質変化から、筋サテライト細胞を標的とした再生医療の可能性を探る」

「筋電図の会」

1. 守下卓也 先生
(広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期2年・日本学術振興会特別研究員)
「手指の複雑動作課題が同側皮質運動野興奮性に及ぼす影響」

2. 木田哲夫 先生（早稲田大学高等研究所）
「脳波と脳磁図で感覚運動連関の神経機構を探る」
参加費：1,000円（事務連絡費, 会場費, AV機材借用費等）
研究会の当日、受付にて申し受けます。
懇親会：研究会終了後に「筋肉の会」と「筋電図の会」の合同で行います。（懇親会のみへご参加頂ける方も大歓迎です）。場所は十八楼（ビュッフェ立食<http://www.18rou.com/>）。午後6時からで会費は6,000円です。

世話人：

「筋肉の会」

東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室
山内秀樹
〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1
TEL：03-3480-1151 内線2445, FAX：03-3480-4591
e-mail：yamauchi@jikei.ac.jp

「筋電図の会」

千葉大学教育学部保健体育教室 小宮山伴与志
〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
TEL：043-290-2621, FAX：043-290-2519
e-mail：komiyama@faculty.chiba-u.jp

The 4th CEPA Japan

～臨床運動指導専門家の社会的台頭を目指して～

日時：2012年9月2日(日) 13:00~15:30
会場：大阪ハイテクノロジー専門学校第2校舎
6階大教室（最寄駅：新大阪）
（新大阪駅から新御堂筋を北に上がり、徒歩5分左側）

参加費：無料

プログラム：

1. 開催の挨拶 13:00~13:05
関西医科大学 木村穰先生
2. 臨床運動指導士の現場から 13:05~13:45
①震災復興における臨床運動指導専門家の役割
(株) トータルフィット 梅田陽子先生
②地域における臨床運動指導専門家の役割
熊本健康体力づくりセンター 山下亮先生
3. 基調講演 13:45~14:45
「基調講演：スポトロロジーが目指す医療とスポーツの融合」
放送大学/順天堂大学 田代孝雄先生

4. 総合討論 14:45~15:30
「臨床運動指導専門家の社会的台頭を目指して」
座長 木村穰先生, コメンテーター 田城孝雄先生

後援：

NPO法人日本健康運動指導士会, (社) メディカル
フィットネス協会, 日本エアロビクス協会 (JAFA),
CEPA/ACSM

主催・お問い合わせ：

CEPA Japan事務局
大阪産業大学人間環境学部スポーツ健康学科 佐藤真治
E-mail: shinjisato2005hawaii@yahoo.co.jp
Tel: 072-875-3001 / Fax: 072-875-3029

編 集 後 記

「体力科学」第61巻4号は、編集委員長として本誌の編集に長きにわたりご尽力いただいた酒井敏夫先生ご逝去の悲報を会員の皆様へお伝えするものとなりました。追悼文として生前の酒井先生のご活躍を垣間見ることができる多くのエピソードを東京慈恵医科大学学長・栗原敏先生がご紹介くださいました。酒井先生に初めて私が対面させていただいたのは、平成9年9月大阪にて開催された日本体力医学会の折でした。特別講演者として招待されたコペンハーゲン大学・Bサルチン教授に同行した際、歓迎の席にて温かい目で手を差し伸べて下さり、労いのお言葉とともに握手いただいたことが鮮明に思い出されます。日本の生理学と体力医学の発展に多大なるご尽力をいただいた酒井敏夫先生のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します。

本号には原著論文6編と資料2編が掲載されています。全8編中6編は国民の健康づくり、体力づくりに直接的・間接的に係わる研究の成果が、また他の2編はアスリートを対象としたスポーツ医科学領域の研究成果が報告されており、本学会の会員の皆様が日々取り組まれ

ている研究分野の幅の広さと奥の深さが改めて実感される業績だといえます。

本号の刊行に先立って、待望の本学会英文誌『The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine』(JPFMS誌)の第1号が刊行されました。このJPFMS誌にはアジア地域のみならず全世界からの論文投稿の期待が込められていますが、会員の皆様の研究成果を一編でも多く本誌を通じて世界へ発信いただきたく積極的な論文投稿を編集委員の一人として切に希望いたします。

文末ではありますが、本年4月1日に日本体力医学会第9代理事長にご就任された下光輝一先生からのご挨拶として、今後の学会運営の抱負と方針が本号巻頭に掲載されています。下光新理事長のお言葉を重く受け止めて、私自身が会員の一人として具体的にどのような本学会活動への貢献が可能かを再考しつつ、編集後記といたします。

水野眞佐夫

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.61, No.4

体 力 科 学 第 61 巻 第 4 号

平成 24 年 7 月 25 日 印 刷

平成 24 年 8 月 1 日 発 行

編 集 兼 発 行 者 鈴 木 政 登
 発 行 所 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階
 一般社団法人 学会支援機構
 日本体力医学会
 編 集 事 務 局 〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
 鶴岡印刷株式会社内
 「体力科学」編集事務局
 TEL・FAX(共通) 0235-22-3120
 E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp
 印 刷 所 〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
 鶴岡印刷株式会社